

おもな内容

- ▶ 第25回 全国学校保健大会
- ▶ 全国学校保健研究大会報告
学校医の立場から
学校歯科医の立場から
保健主事の立場から
養護教諭の立場から
- ▶ 秋の叙勲の荣誉に輝く学校保健
功労者
- ▶ 文部大臣表彰を受けた功労者・
団体・学校
- ▶ 保健史ノート(6)
- ▶ 第7回 全国眼科学校医会
- ▶ 日本学校保健会の動向

The School Health (No.110)

学校保健

全国大会報告号

財団法人 日本学校保健会会報

昭和51年1月1日発行

(隔月発行)

発行 日本学校保健会

東 俊 郎

東京都港区芝西久保明舟

町20第18森ビル2号館8階

電話 (501)3785・0968

振替口座東京 98761

頒価 1部80円(送料共)

第25回 全国学校保健研究大会

第25回全国学校保健研究大会が、学校保健及び学校安全の当面する諸問題について研究協議を行い、明るく、たくましく、現代を生きる健康人をめざして、健康で安全な生活を自主的に実践する児童、生徒の育成をめざして、埼玉県浦和市に関係者約2500人が集って盛大に開催された。今年のテーマは「心身の健康づくりや、健康的な環境づくりを、積極的に実践できる児童、生徒の育成をめざして」であった。



大会第1日目(11月7日)は、折悪しくも朝から熱帯性低気圧の接近で、大雨注意報が出る程の悪天候であったが、ほぼ全員出席の中で行われた「日本学校保健会評議員会」をはじめ、職域別会合や大会運営説明会、班別運営委員会などを予定通り終了。日本学校保健会評議員会では、主に次の事が提案され、すべて満場一致で可決承認を得た。

1. 会務報告
2. 日本学校保健会寄附行為の一部変更について
3. 昭和51年度日本学校保健会の基本方針について

大会2日目(11月8日)に埼玉会館大ホールで開会式が行われ、文部省の安養寺重夫体育局長(永井文相代理)、豊田重徳大会実行委員会会長(埼玉県教育長)などのあいさつがあり、開会式のあと学校保健・学校安全の功労者(63人)、団体(42)の表彰が行われ、夫々に表彰状、記念品が贈呈された。続いて、エベレスト日本女子登山隊の副隊長として初登頂に成功した田部井淳子氏によるスライドをまじえた体験談の記念講演で午前の部を終り、秩父夜台ばやしのアトラクションを見ながらの昼食。

同日午後は全体シンポジウム。埼玉県川口市立元郷中学校の高木起作学校医ら四人から「心身の健康づ

くり」や「健康的な環境づくり」を積極的に実践できる児童、生徒を育成するには、これからの学校保健はどうしたらよいか、また熊本県芦北町立場浦中学校の四宮智香志校長からは学校経営の立場から意見発表がわれた後、参会者からの質疑や意見が述べられ、船川幡夫教授(日本女子大学)のご指導を最後に2時間半にわたる全体シンポジウムを午後4時すぎに終了。

この日の最後の行事は学校保健会合同会議。集った数は予定よりも少なかったが、いずれも学校保健の推進者だけあって、提案事項は実感のこもった切実なものばかりであった。

大会の中心は班別研究協議会だが、それに先立って3日目の午前には「健康診断」「疾病予防」「学校環境」「保健教育」「安全教育」「組織活動」の6つの領域に分かれて領域別講演があり、6人の講師が夫々の領域別当面する諸問題について見解を述べた。

午前11時から、6つの領域が更に32班に分かれて班別研究協議会。健康診断を適正で効果的に実施するには、う歯や近視の予防の管理や指導はどうするか、環境衛生活動を具体的に推進するには、効果的な保健学習は、クラブ活動の事故防止や交通安全対策、保健計画や学校保健委員会の推進体制、などについて、幼稚園から高校、へき地校までの学校保健、学校安全関係者の研究発表があり、熱のこもった協議が時間一杯行われ、最後の全体こそ行われなかったが、各領域毎、各教班毎にそれなりのみのりある協議を終って解散した。

新春を寿ぎ みなさまの健康と
学校保健の一層の進展を祈ります。

昭和51年元旦

会 長 東 俊 郎
役員一同

全国学校保健研究大会 報告

■ 学校医の立場から ■

領域別講演と班別研究協議会

横浜市学校医会 理事
塚 本 信 之

大会の標題に「心身の健康づくりや健康的な環境づくりを、積極的に実践出来る児童、生徒の育成をめざして」とあり従来の疾病異常の発見の段階から進んで健康をつくり、又その環境をつくる方向に力を指向していることが読みとれるので好感が持てた。

領域別講演は東大医学部保健管理学教授田中恒男氏が「疾病予防と健康生活」と題してお話をさせた。

氏は先ず学童の健康生活を確保する方法は色々あるが、それは学童の生活にわたって展開されるべきであって、単に学校での活動にとどまるべきではないと主張された。今日保健活動の基礎理念とされているのは総合保健であってこの思想の発端は米国の予防医学者クラークらが医学教育に関係した会議において提唱した。

疾病の防禦対策として1.健康増進、2.特殊予防、3.疾病の早期認知と迅速な処置、4.重症化防止、5.社会復帰の5段階が有機的に連携し社会的に機能しうる体制をどることが必要である。特に今日の保健活動は健全な社会的行為の達成のためあらゆる意味で総合的でないといけない。

クラークの言う第1次の予防は1.と2.を含めている。そして疾病予防活動は対象のニードに応じてそれが画一的であってはならない。

疾病予防を展開するには

- 1.その疾病の医学生物学的特性を明かにする。
- 2.その疾病の生活への影響を明かにする。
- 3.その疾病の集団に於ける関係を明かにする。
- 4.その疾病の予防原則を明かにする。
- 5.その疾病と家庭又は地域生活との関係を明かにする。
- 6.予防手段の展開の仕組を考える。

の条件が満たされなければならないとしている。

更に今日の保健活動が地域保健との連携が極めて大切であり殊に今日重視される疾病は非感染性のものであり時によっては遺伝性であることも珍しくない。そ

れだけに家庭生活との関係は深く母子保健とからんだものでその点から地域の医療機関との連携が大切になって来る。この点から考えて従来の運用による学校保健の進め方には重大な誤りがある。真の疾病予防は地域保健との有機的なつながりがなければその効果をあげることが出来ない。この意味で学校に於ける地域医師団はきわめて有力なリソースである。

以上田中教授のお話のあと各班に分れて研究会が開かれた。私はかねて担当小学校がう歯の増加に悩まされているので第9班に入って研究した。研究の第一席は高知県葉山小学校奥崎教諭(養護)の「う歯予防のための指導管理はどのようにしたらよいか」についての発表があった。同校は小規模校で、氏は着任間もないながら良く研究をまとめられていた。無医地区対策の適用をうけ4回ほど巡回歯科検診車が来村したと言う事である。給食後1年生全員に歯ブラシ、歯みがき粉、コップを常置して正しい歯のみがき方を指導していること。又、歯牙検査の結果の家庭への通知は歯の図を用いてどの歯がどれだけ悪いのかを明示する、そして治療を終えた時点で歯科医より治療済証をうけて確認をすることとし、又治療の夏休み中にすませるよう指導している。葉山小は小規模校の特性を良く出して居り地域ぐるみのう歯予防活動の状況が目に見えようであった。関係者全体の総合的な協力が大切であることの良い事例であると思った。

次の研究発表は埼玉県宮代町東小学校遊佐道子教諭(養護)のう歯予防に関するものであった。氏は投影機を利用した報告は判り易く、常に保健活動を児童に判り易く親しみ易いものとする努力をして居られることが良く判った。地域の歯科医のうち保険医が学校医のみで、患者に対する歯科医の数が不足で他の市町村まで治療に行って居り早期発見が早期治療に結びつかないことが問題となっている。

又、一連の努力によってDFM率が埼玉県大体で15であるのに対して10.6と言うのは大変な好成績であった。この研究の中で注目すべきはう歯の予防活動(保健活動)が一方通行にならないように親子の話し合の場を持つ資料を配布したこと、う歯予防に関するやさしい歌を作って子供達にう歯予防殊に歯をみがくことへの関心を植えつけた努力である。

之を要するに学校の保健活動はその学校の教育目標に合せてきめ細かい計画を立て、教育活動の流れの中へ流し込む努力をすること、児童に保健と言うものを日常生活の中にやさしくとけこませるよう指導すること、地域医療と学校保健を切りはなすことなく、様々の工夫をこらして之が強力な連携が出来るよう関係者が努力することが大切である。

全国学校保健研究大会 報告

■ 学校歯科医の立場から ■

全国学校歯科研究協議会

日本学校歯科医会 専務理事

飯田 嘉一

第25回全国学校保健研究大会に伴い、職域別会合である全国学校歯科研究協議会が7日午後1時より埼玉県衛生会館で開催され開会式に次いで「埼玉県東秩父村立小学校2校のう歯発生率の特異性について」と題して埼玉県歯科医師会学校歯科部常任委員高野良治先生が研究発表をした。つづいて、特別講演が「学校歯科におけるう歯予防の効果的なすすめ方」という演題のもとに愛知学院大学歯学部教授・日本学校歯科医会常務理事榊原悠紀田郎教授によっておこなわれ、全国より集った学校歯科医に深き感銘を与えた。講演の内容を簡単に紹介すると、1)問題点。a)児童のう歯予防は古い問題であるのにほとんど片付いていない。b)予防処置については、現在の学校歯科医の力では到底処理できない。c)早期処置の方法は、歯科医療需給関係の不均衡からみて、これ以上はのぞめない。d)home careによる手段の徹底についても、現在の保健教育のあり方の中では、これ以上の徹底はむずかしい。e)乳幼児のう歯対策はごくわずかずつ効果をあげつつあるが、まだ学校歯科にその効果が反映するほどになっていない。2)根本的な対策。根本的には具体的にこの事態に対応すべき“人手”が決定的に不足している。そこでa)有力に“歯科予防処置”を行う専任のチームによる組織的な処理b)保健指導あるいは保健教育の徹底的な重点形成をはかるほかない。3)当面の対策。根本的な対策には、かなりの時日を要するだけでなく、またそれぞれを計画として取扱うところまでに行っていない。そこでa)何かの方法で、初期う歯に対するフッ化デミアン銀応用の徹底化を図る。b)フッ化物溶液による学校

給食後の洗口を組織的に行う。c)歯口清掃習慣のより一層の徹底を図る。d)甘味嗜好の適切な抑制をはかる。ということを取りあえずすすめて行くことが必要ではないか。このためにも専任の歯科衛生士の学校巡回処置というようなことを考える必要がある。4)う歯の特異性の正確な把握。これらの対策をすすめるに当ってまず一般の疾病とはかなり異なっている。う歯の性質をしっかりとつかんでおく必要がある。a)う歯の初期病変はエナメル質のごく表層(10~20 μ)の脱であるが、それだけではう歯にたらない。(酸蝕症とのちがい)、b)う歯はたしかに微生物により発症する感染症であるが、それは常在菌の様態によってきまららしい。c) dental plaqueは大きな要因の一つではあるが、それは常在菌の様態によってきまららしい。d)裂溝や小窩のもの、平滑面のものとはかなり様相がちがう。e)歯質、ことにエナメル質の耐う蝕性の個体差は大きい。f)エナメル質の耐う蝕性は歯牙の萌出後次第に変化する。g)う蝕の発症とその進行とは少し趣を異にする。5)予防手段判定の基準。a)臨床的效果の確認。b)その作用機序の解明。c)安全性の確認。d)手段の容易性。

11月9日 班別研究協議会第2領域第9班

う歯予防のための指導や管理は、どのようにしたらよいか。という研究題で、学校保健の大きな課題となっているう歯をどのように予防し、また処置率を高めたらよいかを解明する。設定の趣旨で、研究内容は1.う歯予防について、2.う歯の指導、管理について。又研究の観点については、(1)う歯予防のための学校行事の立案とその実施のしかた。(2)学校指導におけるう歯予防のための指導計画作成と保健指導の進め方と(1)う歯を有する幼児の個別指導の進め方。(2)う歯治療のための家庭や医療機関(団体)との連絡提携。について指導助言者、司会者、発表者、記録者、運営委員の方々の熱心さが会場にあふれた。研究発表者の高知県高岡郡葉山村立葉山小学校養護教諭奥崎幹氏の現状と問題点、研究と実際、今後の課題、と埼玉県南埼玉郡宮代町立東小学校養護教諭遊佐道子先生の地域の現状とう歯予防の問題点、教育活動全体の中での学校歯科保健教育。う歯を有する児童の個別指導。う歯治療のための家庭や医療機関との連携、今後の課題、学研究発表があり活発な質疑応答があり盛会であった。

体力をつけ健康を保つ **カワイ** のビタミンAD剤

カワイ肝油ドロップ

1粒中 ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位

カワイカンズドロップM

1粒中 ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位
リン酸水素カルシウム 65mg



河合製薬株式会社 東京都中野区新井2丁目51-8

全国学校保健研究大会 報告

■ 保健主事の立場から ■

大会およびシンポジウム

埼玉県小川町立東中学校 保健主事
吉 田 和 子

昭和50年11月8日(土)、前日の雨もすっかり晴れ上がって、浦和の会場に急ぐ道すがら、新雪をかぶった富士がくっきりと聳えていた。

○開会式

会場の埼玉会館には全国から集まった学校保健関係者で満員である。

厳粛の気が溢れ、永井文部大臣(体育局長代理)の挨拶があり、心身共に健康な児童、生徒の育成が当面の課題であることを述べられたが、実践上の諸問題の解決に一段の努力をしなければと改めて思った。

埼玉県知事(副知事代理)埼玉県議会議長・浦和市長の祝辞につづき、文部大臣表彰にうつつた。壇上に並ぶ表彰者の先生方は、長年の努力が今実り、ここに晴れの日を迎えたのである。埼玉県歯科医師会長関口恵蔵氏の謝辞で大会気分は盛り上がる。

○記念講演

現在埼玉県にお住まいのエベレスト日本登山隊副隊長の田部井淳子さんの「ヒマラヤの秘峰に登頂して」という体験談である。

女性だけのグループによるヒマラヤ登山の壮挙は国際婦人年にもふさわしいできごとといつてよい。

田部井さんがこれほどまでに、山に魅せられるようになったのは、小学校4年のとき、那須の山肌にふれ空の美しさにうたれた時からだそうで、自然の偉大さを感じさせられた。この話の中で最も感動を覚えたのは、最後の6時間の登頂に長く周到な準備を要したことであった。安全という点をよく確認し合いグループの協力による作業が偉大な効果をもたらしたということに、これからの安全教育・保健教育に大いに参考になると思った。

○全体シンポジウム

午後の全体シンポジウムは「心身の健康づくりや健康的な環境づくりを積極的に実践できる児童・生徒の育成をめざして」という主題で5人の先生より提案が

なされた。

まず学校医の高木先生より「主として心身の健康づくりをめざして」ということについて、健康づくりは知識ではなく習慣である。人間の価値は知識だけでない体力を加えるべきであり、心身の健全な育成をめざすと言われた。

次に学校薬剤師の種村先生は「健康的な環境づくりをめざして」と題され、学校内部をよごさないようにすることは、国土を愛する気持ちに通ずると特色ある環境づくりをのべられた。

次は「主として心身の健康づくりをめざして」と大阪の小学校の松尾先生より、学校での保健活動とその分担について話された。健康診断における職員の分掌例が提示され、保健主事は保健計画の立案者であり、実施者であると述べられた。

また「主として健康的な環境づくり」をめざして岩手県の高校の養護の矢羽羽先生より高校の保健委員会の地道な活動について話された。

最後に「心身の健康づくりや健康的な環境づくりをめざして」と題して熊本県の中学校長である四宮先生より学校経営という立場から子どもに心のゆとりを持たせるということを強調されて、そのために総合学習時間を設定し、担任と生徒の自主的運営の時間を設け担任と生徒の「心のふれあい」の場としたことを述べられた。

司会は地元埼玉の大宮北小学校長若田先生で巧みに話をさばかれ、指導者の日本女子大教授船川先生より次のような指導があった。

学校保健が熱心さの余り一方的な教育になってはいないか。健康になっていくのは生命力によるもので、子供達の真の力で克服していくのが少なくなって何かひ弱になってきている。

環境調整や疾病発見だけでよい。学校保健はもっと教育的でなくてはならぬ。それには健康人を育て教育することを重視すべきである。教育的な観点は校長の意志一つで、学校全体の意志の疎通をはかり盛り上げていき、管理的な色彩と同時に教育的色彩(生徒活動)があつてよい。保健を知識としてだけでなく実践にむずびつかなくては困るので思い切った改革があつてもよいと述べられた。

今大会のテーマである「明るく楽しくたくましく育てる」ためには実践の大切さとそれにとりくむ指導者の熱意を改めて考えさせられた。

2日めは班別研究協議会を中心として進められた。まず6領域の講師の先生より当面する諸問題についてお話を伺い、発表を軸として協議会が活発に行われた。

全国学校保健研究大会 報告

■ 養護教諭の立場から ■

学校環境改善の方策を探る

愛媛県養護教員研究会会長

東 ユリ子

「心身の健康づくりや健康的な環境づくりを、積極的に実践できる児童・生徒の育成をめざして」の主題に強い共鳴を覚えて、本年度の学校保健研究大会にのぞんだ。

記念講演(体験談)「ヒマラヤの秘峰に登頂して」を拝聴して、大事業を完成させるための、長い年月にわたるち密な計画・チームワークの尊さ、強い意志による実行力など、私共が現在おかれている立場をふりかえてみて、誠に感銘深いものがありました。

なお、分科会では、第3領域「学校環境」に参加し領域特別講演「人間環境の諸問題と緑の環境」と題し東京教育大学小林和夫教授の、幅広い分野を○最近の環境問題○わが国の自然環境○森林生態系○緑と人間生活の四項目に分類し、我々の日常生活に直結した諸問題を、学術的にかつ重点的に、わかりやすく話され、研究意欲にもえた会員の心に深い印象をあたえた。

日常の家庭食品、みかん、りんご、そ菜類に至るまで、また、道行く落葉樹など、オキシダントや亜硫酸によって汚染された公害の実態など、くわしく研究し、それらをもとにした、スライドを映写され、私共が日常とかく、みすごしにされがちな問題についても視聴覚をとおり、公害による認識を新たにし、児童、生徒の新しい科学的な保健指導の重要性を痛感した。

班別研究では、「日常検査活動の定着と習慣化をめざして」「鉄道騒音の影響」防音壁の効果について」と題して、地元埼玉県の研究発表をもとにし、各地より持参された貴重資料を参考とし、活発な計議がおこなわれた。

結論としては、学校保健の進展をはかるためには、
○児童・生徒の科学的な保健教育。
知的理解を深め、保健管理の必要性を習慣化させる。

- 健康観察・健康管理を家庭に定着させる。
 - 養護教諭の実践活動をとおり、児童・生徒の健康管理・保健指導の累積を効果的に運用する。
 - 地域社会と提携し、学校保健委員会を効果的に運営する。
- などが、まとめられた。

望ましい学校環境に改善したいと思っても、これには必ず行政面での隘路にぶつかり目的達成のためには、ほど遠い各地の現状である。

地域の格差がはなはだしい現状をかえりみて、画一的な規準は効果がうすいと思われるが、環境衛生基準の制定を促進し、関係方面への普及啓蒙を望みたい。本年度の主題のように、心身の健康づくりや、健康的な環境づくりを、積極的に実践して、未来に大きな夢をもって、現在の大人にできなかった、よい環境づくり、健康な体と、平和な精神、そしてせまい国土でもお互いが助けあって、心身共に豊かな人間を育成する保健教育こそ、私達教育者に果せられた大きな使命ではないでしょうか。

それには小学校1年生から、「保健教育」を学習の場におろして、公害の発生源は何か。それを防ぐのではなく、発生させないようにするのは誰か。これは私たち人間ひとりひとりが、保健の知識を深めて、現在のよな社会から一日も早く住みよい社会をつくれるよな、教育と実践力とを備えた人間づくりが急務であることを痛感した。

養護教諭の立場から日本学校保健会の会長及び関係者に深く謝意を表するものである。

昭和21年1月28日設立以来、養護教諭からは評議員は1回もでていなかった。地方にいる私共は、常に不安と、何かものたりなさを感じていた。今回約30年ぶりに、東京から安藤夏子、愛知県から柴田富貴の2名が評議員会に出席できるようになりました。

組織の問題も幾多の困難はあるでしょうが、日本学校保健会の役員3人が窓口になって来年度、高知県で開かれる全国学校保健研究大会までには、全国の養護教諭が望んでいる養護教諭研究会の一本化を実現したいものです。

埼玉県の研究会に出席した一同がこのことを一番強く願っている様子を見て熱いものを感じました。常務理事、評議員の先生、今年こそは全国養教の団結によって、児童・生徒の保健指導をより充実したものにししたいと切望しています。

(愛媛県立土居高等学校養護教諭)

● 女子生理教育用カラーズライド

日本学校保健会監修

カラーオートスライド (66カット・15分、録音テープ、台本、マニュアルつき)

「いつものあなたでいるために」

— 月経の知識と正しい手当て —

■ 内容

月経の仕組みとはたらきを中心に、月経時についての考え方や生活管理の方法をわかりやすくまとめてあります。

■ 定価 9,500円

無料でもお貸しいたします。お申込みまた、使用上の詳細については、下記へ、お問合せ下さい。

東京都港区高輪3-25-23
ユニ・チャーム株式会社
TEL 03 (449) 1555(代)

学校保健史ノート(6)

坐高三角法の創案者 豊田順爾

杉浦守邦(山形大学教授)

学校用机腰掛の高さの決定法として、腰掛坐面の高さは下腿長、机の机面の高さは腰掛の高さに坐高の3分の1を足したものをもってするという、この方法を知らない学校保健関係者はほとんどいないであろう。

古く机面の高さの決定法は、大正10年8月の文部省通牒によって「腰掛ニ正坐シテ、前臂ヲ直角ニ曲ゲテ肘ノ下面カラ腰掛ノ坐面ニ至ル距離ニ7分乃至1寸3分ヲ加ヘタモノト、腰掛ノ座面ノ高サヲ合セタモノ」とされて来た。この机高と腰掛高の差を差尺というがこの差尺を「肘下尺プラス調整数」とするこの決定法に対して、そのあいまいさ、不正確さをつき、これに代わるものとして坐高の3分の1をあげ、坐高三角法の名称の下に、自家の理論を世に普及させ一般に承認させた人物の名前を知らない人はなお多い。彼こそ豊田順爾であり、彼が市井の多忙な開業医でありながら小学校の校医として熱心に勤務し、さらに生涯の情熱を傾けて机腰掛問題にとりくみ、多年の研鑽の末この理論を創始した努力のあとを聞かされたとき、その熱意に感銘しない人は少ないであろう。

彼は明治19年群馬県前橋市で生れた。同42年京都府立医学専門学校を卒業して、直ちに同校の小児科教室に勤務したが、2年後京都市上京区室町一条に小児科医院を開設した。当時小児科専門は少なく、門前市をなす有様であったという。

大正7年7月地元の室町小学校の校医を嘱託された。これが彼の一生学校保健と関係をもつ機縁となった。彼が学校医としての職務にあたり始めた頃、世界の小児科学会で注目を集めていたのはオーストリーの小児科医ビルケウの栄養学説であった。彼は乳幼児の栄養需要量をきめるのに従来のカロリー説を排し、牛乳1gに相当する栄養価NEMをとることを提唱して、腸の面積1cm²に対し1NEMを与えるようにすべきだとした。そしてこの腸の面積は坐高の2乗に等しいとし、又児童の栄養状態を評価するための指数にも体重の立方根と坐高との比を用いることが適当であるとして、坐高測定的重要性を強調した。

学童の身体検査にあたり、栄養状態の判定によるべき基準がなくて迷っていた豊田は、坐高をとり入れることを考え、翌9年4月在学児童2千名の坐高測定を実施した。このために彼は特別の坐高測定器を考案し、非常な苦勞の末完了した。その結果彼は日本人学童の坐高は、欧洲人に比してきして遜色がないが、身長に大差があるのは下肢の著しく短小であるがためである

ことを知った。

翌10年文部省から机腰掛標準に関する通牒が出されたとき、彼は差尺を肘下尺プラス調整数というようなあいまいな数できめることは適当でない、椅坐位にあっては坐高を基準に定めるのが最も合理的であろうと考えた。椅坐姿勢を図に書き、頭頂から坐面までの垂直線とこれに直角に交わる水平線を入れ、等長とするとき、直角二等辺三角形が得られるが、この線上に種々の点を仮想するとき、特に読書時の眼と机上の書物との関係を考えるとき、差尺を坐高の3分の1とするのが最も適合するというを見出した。理論的に得たというよりはむしろ経験的に感知したといった方がよかろう。彼はこれらの仮想点を結ぶ図を完成して、これに坐高三角法の名を付し、大正13年5月「学校衛生」誌上に発表した。さらに大正14年の第4回全国連合学校衛生会総会(大阪)にこれを報告するとともに、学校身体検査項目中に坐高を加えることを提唱した。

その後彼は、この坐高三角法の合理性を証明するため、「作業能率に関する実験的研究—坐高三角法による椅坐対机作業」(大15)「ローレンツ・コーン氏調整数の本体を検索し併せて肘下尺の不正確を論じ差尺決定方法の不備に及ぶ」(昭2)「机高決定標準たる坐高三角法の実用的価値」(昭2)などの研究をすすめた。このような業績によって昭和2年10月医学博士の学位を与えられている。

各地を回って坐高三角法の普及につとめ、又全国大会ごとに測定項目採用を提案し続けた甲斐があって、ついに昭和13年学校身体検査規程改正の機会に坐高がとり入れられた。戦時中一時簡素化のため削除されたこともあるが、間もなく復活して今日に至っている。又昭和35年保健体育審議会の「学校環境衛生の基準について」の答申中に、机高決定法として差尺を坐高の3分の1とする方法が公式に採用されたことは、彼の最も名誉とするところであった。

彼は又27年間学校医をつとめるかたわら、長く京都市学校医会長の要職にあり、昭和7年からは虚弱児施設八瀬学園の園長、昭和19年からは虚弱児施設伏見尚健寮の寮長なども兼ね、著書に「養護教育原論」「学校机腰掛指導新書」「学校医の職務活動」などがある。学校保健に生涯を捧げ、文部大臣表彰(昭29)保健文化賞受賞(昭32)藍綬褒賞受賞(昭37)など数かずの栄光に包まれて、昭和41年11月歿した。享年80歳だった。

参考文献

- 豊田順爾：学校机腰掛指導新書、東山書房、昭26.2
同：小学校児童、坐高ニ就テ(第一回報告)、児科雑誌 281. p.63-79, 大13
同：机ノ高サ決定標準トシテノ坐高三角法、学校衛生 4-5, p.318-347, 大13.5
同：机高決定標準トシテノ坐高三角法、日新医学 16-7, p.1203-1248, 昭2.3
同：豊田氏系譜, p.48-73, 昭36

学童の集団検尿には
潜血検査も

キッドステックTM

Kidite

ハマコンピステック[®]

Hema-Combitic

製造元：エームス事業部 販売元：三共株式会社
マイルス・三共株式会社

肉体疲労時の栄養補給
滋養強壮に
ポポンS錠
シオノギ製薬

祝・藍綬褒章受章者

高知県学校保健協会副会長 岩崎 尚夫
 東京都学校歯科医学会副会長 小島 徹夫
 富山県学校薬剤師会会長 高安 正明
 なお本会はお祝いとして、銀杯一個をお贈りした。

第7回全国眼科学校医大会

埼玉県眼科医会会長
高 塚 武 次

日本眼科医会主催、埼玉県眼科医会担当による第7回全国眼科学校医大会は、第6回全国学校医大会(日本医師会主催)と並行し次の如く開催され盛会であった。

日時 昭和50年11月8日 午後4時

会場 埼玉会館(浦和市)

大会次第

- 1) 海会の辞 埼玉県眼科医会長 高塚 武次
- 2) 挨拶 日本眼科医会長 三田 弘
- 3) 祝 辞 文部大臣
 " 埼玉県医師会長 福島 茂夫
- 4) 講 演
 イ) 海外における学校保健の実情
 前文部省体育局長 能美 光房
 ロ) 視力の変動と仮性近視
 東京医科歯科大学助教授 大島 祐之
 ハ) 意見交換
- 5) 次期開催県挨拶 高知県眼科医会長(代理)
- 6) 閉会の辞 埼玉県眼科医副会長 落合 文平
- 7) 懇 親 会 同所二階グリルシャトー
 出席者 文部省体育局長 岡本麟太郎先生、能美光房先生、東京医科歯科大学助教授 大島祐之先生、日眼医 三田弘会長、木村常任理事他、沖縄県稲福全一先生
 以下90名におよぶ盛会であった。

日本学校保健会の動向

1. 副会長定員2名を4名に増員

昭和50年11月7日の評議員会で、本会の寄附行為の1部変更に関する件について、理事会ならびに評議員会を開催した結果、副会長2名を4名に増員することになった。従来、副会長は職域を考慮して2名が選出されていたが、本会と加盟団体との関係を密にするため、このような措置がとられた。本会の寄附行為の変更は、文部大臣の認可を必要とするが、その手続きも済み、11月29日東会長より、重田精一(東日本推薦)豊島文雄(西日本推薦)の両氏に会の意向を伝え、承諾を得た。湯浅泰仁、永山芳男両氏とともに副会長が4名となり、本会の強力な推進力となった。

2. 運動機能検査の協力校96が決まる

学校保健センター的事業の一環として、健康評価方法委員会は、船川委員長を中心として、児童・生徒の全人的かつ積極的な健康度の評価を行うため、文部省体育局長との協力のもとに実際的な方法を検討している。2年間にわたる調査研究の結果、全国的な規模で調査する必要にせまられたので、都道府県の学校保健会ならびに教育委員会を通じて、協力校を依頼した。検査の種目は、20秒片足立ち、40秒腕まげ懸垂、60秒連続片足とびの三種類である。(石井記)

学校保健用品推薦公告 10月～12月

◇新規◇

スロット式KYS身長計 株式会社山越製作所
 KYS新型回転式視力計 "

◇更新◇

ビタドールゼリー 林兼食品株式会社
 チャームナップ さわやか ユニ・チャーム(株)
 救急用人工蘇生器レスバック (株)杉山元医理器

歯ブラシはお口のサイズに合ったものをお選びください **バネットライオン ユニアー**



100円

ライオン歯磨株式会社

偏食児の栄養補給、虚弱体質に

パンビタンペレ
パンビタンペレ チョコレート



幼児の発育期・病中病後・発熱性消耗性疾患・食欲不振・栄養障害などの栄養補給、滋養強壮に。